【研究報告（令和２年度）】

チーム①　妊娠・出産及び子育て期の子どもといる生活の研究チーム
「こどもといる生活」を共に支えあう子育て力・地域力の創出

廣瀬伸一[1,*)]、藤田貴子[1)]、宮城由美子[2)]、塚原ひとみ[2)]、佐久間良子[2)]、小柳康子[2)]、
長谷川珠代[2)]、松本祐佳里[2)]、藤原悠香[2)]、古賀　綾[2)]、田代恵莉[2)]
1）小児科学、2）看護学科、*）チーム責任者

要　　旨

令和２年度の新型コロナウイルス感染予防のためほとんどの計画が実施できなかった。妊娠・出産・産褥期における実施計画においては、福岡大学病院産科部門における母親学級が中止、城南保健所との協賛が受けられず学内の立ち入り制限などから中止とした。これらの事業においては、今後動画やHPの作製などを検討している。また研究調査も福岡大学新生児部門の入室制限により今年度は実施できていない。子育て期における支援の【基礎編】については、昨年より人数を制限して開催された。【実践編】で計画していた支援技術の実施評価については、動画を作製・配信して研修機会を確保し、効果評価を現在実施している。

１．緒言（研究の目的）

地域・家庭の子育て力を強化し、妊産婦・育児期の母親の孤立化を防ぎ、就学前の「こどもといる生活」を地域で支えることを課題として、①ハイリスク妊産婦とその家族を対象とした支援講座を通して子育て力の強化を図り、ハイリスク児を出産した妊産婦の抑うつ・不安傾向、育児困難、赤ちゃんへの気持ちなどの継時的な変化を探索する。②保育所の看護師及び保育士を対象に、子育て支援技術の段階的研修を展開し支援技術の評価を行い健康支援対応力の向上を図る。

２．方法および成果（研究実施計画）

１）妊娠・出産・産褥期における実施計画

①孫育て・子育て講座：

孫育て・子育て講座は福岡大学病院産科部門と協働し、母親学級第 4 課の位置づけを持ちながら地域に公開された講座として運営してきた。新型コロナウイルス感染症への対策を産科部門師長と協議し、感染予防のため大学病院が母親学級第 1～3 課の開催を中止したことに連動し、今年度は孫育て・子育て講座においても開催できなかった。今後は、動画やHPの充実による啓発活動を予定し検討している。

②プレママ・パパワークショップ：

新型コロナウイイルス感染症による影響により福岡市が集合して行う活動へは協賛不可の意向であり城南区保健福祉センターの協賛が得られなかった。また、学内への立ち入りが制限されており、外部講師や参加者を招くことが困難であったため、開催できなかった。今後、妊娠期の親準備への活動を模索検討している。

③ハイリスク児を出産した母親の抑うつ・不安傾向、育児困難、赤ちゃんの気持ちに関する探索研究

対象：福岡大学病院総合周産期母子センター新生児部門に入院中の新生児を出産した妊産婦で本研究の調査票記入にあたり説明を行い、同意した妊産婦。

新型コロナウイルス感染症による影響により、福岡大学新生児部門の保護者の面会が制限されている状況の中では、対象の選定や確保が困難であったため実施できなかった。昨年度までに得られた 10 例程のデータの分析を進めている。

④小児科かかりつけ医との協働に関しては、医療機関の状況から困難と考え次年度以降計画を修正していく。

２）子育て期における支援の実施計画

福岡市と福岡大学ブランディング事業の共同

開催で2講座実施した。コロナウイルス感染予防のため、例年に比べ参加人数を半減にて実施した。

①「福岡市保育士アレルギー研修会」

10月29日　なみきホール　参加者132名

福岡市保育園等職員に対する食物アレルギー児の対応についての理解を図る事を目的に開催した。保育士73名、調理等職員39名、施設長6名、看護師5名で94%が「非常に参考になった・参考になった」と回答していた。自由記載の内容には「エピペンの使い方を改めて学べたので良かった。以前聞いていたが、忘れてしまうので、定期的に学び直さなければならないと思った」「抽象的な認識だった事が具体的に分かり、とても充実した時間だった。特に実際にアナフィラキシーが起きた場合の対応や、家庭との連携を詳しく伺えて良かった」「アレルギー児の子どもを預かる責任を保育園側がしっかりと持ち、職員一人一人が症状の出た際の対応の仕方を把握しておかなくてはいけないと改めて思った。実際症状が出た場合、自分がどう動くかのシミュレーションをして、迅速に対応出来るように知識と理解をしておく事が大事だと思った」「アレルギー対策において、災害時や緊急時の場合のマニュアル作成が必要だと参考になった。改めてアレルギー児についての情報を共有し園で研修を行う事が大切だと思った」等が示された。

②「福岡市健康安全研修会」【基礎編】

11月17日　福岡市中央市民センター　参加者140名

福岡市認可保育園職員に対する子どもの事故や体調不良時の対応についての理解を図ることを目的に開催した。保育士113名、施設長7名、看護師7名、調理等2名で93.5%が「非常に参考になった・参考になった」と回答している。参加した感想では「個人の体調の変化等、その日の様子を常に気を付け，対応していくべきだと再認識した。怪我した際、鼻水を拭いた際等、素手でしている事が多いので、今後気を付けていこうと思った。」「危機管理について見直す点を洗い出す事が出来る良い機会になり、またそのための情報が多かったので参考になった。」等の意見が示された。

③「福岡市健康安全研修会」【実践編】

例年「福岡市健康安全研修会」【実践編】【振り返り】は、【基礎編】終了者のうち希望者に対して福岡大学看護学科棟にて実践研修を行い、参加者の支援技術の効果評価を行っていた。今年はコロナウイルス感染予防のため対面での実施ができず、DVDを作製した。緊急時対応園内研修DVDは、「第1章　けいれんについて」「第2章　園内研修の進め方」「第3章　シミュレーション研修の進め方」「第4章　研修の実際」の4章で構成した。対象は【基礎編】終了者で希望した約80施設へ配付し視聴後の効果評価を依頼している。

３）次世代の親となる大学生への子育て支援

ポスターを作製し学生募集を計画していたが、新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかったため、引き続き学生募集を行い実施していく。

３．まとめ（考察・結論）

令和2年度の目標は「効果的な子育て支援の方策を、次世代の親となりうる大学生に適応する。切れ目のない支援を行うためにも、「小児科かかりつけ医」との協働を行う連携モデルを作製する」としていたが、新型コロナウイルス感染に関連しいずれも実施できなかった。特に小児科医との連携に関しては、次年度以降も困難と思われるため計画を修正していく。又大学生への支援方策は、参加学生を募集し展開できるように計画していく。

４．研究発表

【学会発表】

・保育施設に起こったヒヤリハット・事故事例の分析　第67回日本小児保健協会学術集会（令和2年11月　久留米　web開催）

・「保育中に体調不良や傷害が発生した場合の対応研修」後の対応への自信と研修時期との関連の検討　第67回日本小児保健協会学術集会（令和2年11月　久留米　web開催）

・ダイバーシティ―型研究ネットワークの構築「地域・福岡市・大学との連携：こどもといる生活を支える」日本看護研究学会第25回九州・沖縄地方会学術集会（令和2年10月福岡web開催）

５．知的財産権の出願・登録状況

なし